



磐田市立総合病院を見学して

自治医科大学医学部 メディカルシミュレーションセンター
センター長 医療安全学 教授 河野龍太郎

病院内を見学して、「明るくスッキリしている！」「見違えるようにきれいになった！」というのが第一印象でした。特に、全体的に「明るい」というのを感じました。この「明るい」というのは、「工学的に明るい」と「表情が明るい」の両方です。

私は10年ほど前から医療安全の問題に関心を持つようになりました。特に、ある病院で起こった医療事故ではヒューマンファクター工学の観点から裁判所に意見書を提出しました。この意見書を書く過程で医療システムにはたくさん問題があることに気づきました。さらに、気づいたことは、産業界では安全や効率の向上のために普通に行われていることが医療の世界ではほとんど実行されていないことでした。医療システムは他のシステムに比較して非常にリスクが高いにもかかわらず、実行すれば必ず効果が期待できる対策がほとんど行われていないのは驚きでした。

ヒューマンエラーは、人間が生まれながらに持ついろいろな特性と人間を取り巻く環境によってある人間の行動が決まり、その行動がある許容範囲を逸脱したものです。エラーは不注意やしっかりしていないからだけで起こるものではありません。一生懸命にやっても発生することがあるのです。ある許容範囲から逸脱した人間行動に大きく関係しているのが環境なのです。したがって、エラー対策は、まず、エラーの起こりにくい環境にすることが重要なのです。5S活動はまさにその環境作りの基本的活動なのです。

数年前、磐田市立総合病院の現場を見せていただいたときは、ただものが置いてあるだけの物品倉庫、医療機器の汚れた電源コード、いつ使うか分からないようなものがあふれていました。そのころは私も病院の実態がだんだん分かってきて、ここの病院も同じだなという印象を持ちました。

その後、「医療安全のためになにをすればいいか？」という相談がありました。私は迷わず「5S活動」を推奨しました。私が意見書を書いた医療事故は5Sさえやっていたら防げたはずだと確信していたからです。しかし、あまり期待はしていませんでした。なぜなら、私は講演会や勉強会などで安全のための具体的方策を提案しているのですが、医療従事者は自分の時間やお金を使ってそれらの勉強会に参加し、熱心にメモを取っている割には実行しないのです。勉強が目的化しているところがあります。安全対

策は実行しなければ全く意味がありません。したがって、どうせやってもちょっとお片付け程度で終わるのではないかと思っていたのです。

ところがこの期待(?)は見事に覆されました。その後の取り組みはすばらしく、磐田市立総合病院は病院全体一つになって5Sに取り組みました。病院長のピースサインの写真が送られてきたときには驚きました(私の講演の時、勝手に使わせていただきました)。本当にやっているのだ!という驚きです。そして、その結果は今回の見学でよく理解できました。

病院全体が一つになって、という意味が重要なのです。今日の社会は非常に複雑になり、一人で仕事を完結するという時代は終わりました。病院で言えば一人の医師、一人の看護師が単独で仕事を完結するということはほぼ考えられません。ということは、病院の中でさまざまな職種の人が連携を取りながら目的を達成するという仕事のやり方になっています。磐田市民総合病院の5Sの取り組みで特徴的なのは、病院職員だけでなく病院で働く職員以外の人も活動に参加したという点です。

さらに、明るいという点で着目すべきことは、そこで働く人の表情が明るいと言うことです。これはコミュニケーションの改善に大きく関係します。世の中に完全な人間はいません。そして、人間は一生懸命にやってもエラーをすることがあります。この前提で考えると、もし、誰かが間違いを発見したり、あるいは、疑問を持ったとき、それを声に出して言える雰囲気があることが重要なのです。病院で働く一人一人が人間は完全ではないという前提で、自分もエラーをすることがあるという気持ちで、一つでも少しでもリスクを低くするために、疑問を持ったら口に出すことができる環境が大切です。表情が明るいということはコミュニケーションがよいことを示していると考えられます。

以上、思いつくままです。5S活動で困難なのは維持です。これも人間の持つ特性の一つです。今後もぜひ積極的に活動を進めていただきたいと思います。磐田市立総合病院に見学者がたくさん来て(業務に差し支えが出るという懸念もありますが)、うちもやってみようと思う病院が増えるといいと思っています。ただし、私のゴールは磐田市立総合病院に5Sの見学者が来なくなることです。つまり、全国の病院が5Sを普通にやるようになるいいと思っています。

最後にお願いです。この経験を他の病院に提供していただきたいのです。磐田市立総合病院だけがよくなるのではなく、日本の医療全体がよくなることも考えていただきたいと思っています。

お忙しいところ、見学させていただきましてありがとうございました。

以上

(2010年4月22日)